

おかちまち たいとう

台東区立御徒町台東中学校 学校だより 第5号

令和7年9月5日（金）

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/1320111>

↑更新中

2学期始業式式辞から

校長 福沢 俊之

今年も、暑い夏休みでした。夏休み前半、夏季学力アップ教室や水泳教室、8月5日から3泊4日で霧ヶ峰林間学園を行いました。それぞれに参加したみなさんは、目標をもって充実した時間を過ごすことができたと思います。夏休み後半の8月26日から3日間、2年生は職業体験学習を行いました。事業所を巡回して、担当の方々と話をしながら、あらためて「あいさつ」「礼儀（言葉遣い）」「みだしなみ」がいかに大切であるか、ということを感じました。そして、部活動の夏季総体やコンクール、後半にはシード権大会や芸楽祭での演劇部の公演もありました。それぞれの活動の成果から、次への目標が見つけれられたとすれば、2学期の活動もますます楽しみです。

さて、3泊4日の林間学園で部活動合宿と一緒にやっている勉強合宿は、3年生の希望者を対象にしています。朝は6時半から、夜は8時半まで、国語、数学、英語の授業と自習、小テストを繰り返し行います。自習の時間には、質問にその場で答えてあげられるように、講師として大学生に参加をしてもらっています。今年は、大学1年生から4年生まで、8名の方々に同行してもらいましたが、全員が本校の卒業生でした。最終日、参加した生徒に向けてメッセージをいただくのですが、先輩たちの言葉は、身近で説得力のあるものだったように思いました。簡単ですが、私なりに聞いてまとめたものを紹介します。

中学時代、勉強を頑張ることができなかった。やらされ感があったからかもしれない。でも受験は自分の人生を変えるチャンス、自分の意志を表明できるチャンスだ。（Aさん 大学1年生）

中学3年生の10月から自分なりにスイッチを入れた。30分休んで一時間勉強する。オンとオフを明確にしつつ、とにかく勉強を続けること、最後までやりきることだ。（Bさん 大学1年生）

コロナ禍に中学3年生を過ごした自分は受験生だという実感がわかなかった。でも志望校は決めていた。ネットでいろいろな学校を見ながら自分の気持ち確かめた。（Cさん 大学2年生）

行きたい高校があった。難しいと言われたけれどあきらめきれなかった。希望する学校に進学した自分の未来を想像した。それが勉強のモチベーションになった。（Dさん 大学3年生）

勉強と休憩のメリハリをつけながら一日10時間、勉強した。毎日記録をつけることで、「こんなに頑張った」と自分で振り返ることができ、自信につながった。（Eさん 大学3年生）

自分が志望する学校と保護者が勧める学校が違っていた。保護者と喧嘩しても自分の受けたい高校を受けた。今、自分の選択は間違っていなかったと、責任を持って言える。（Fさん 大学3年生）

今、自分の専門分野を学ぶことが中心となって思うのは、苦手な勉強に取り組めるのは中学生のときであるということ。苦手な教科の力を伸ばす、その方が伸びしろがある。（Gさん 大学4年生）

受験校の選び方として、候補にしている高校に自分が進学したときのメリット、デメリットを書き出してじっくり眺めて考えることをお勧めする。まだ時間はある。（Hさん 大学4年生）

長い人生を思えば、中学校を卒業したばかりの大学生。その先輩が、社会に出ることを目前にして後輩に語ってくれた中学校時代を振り返ってのメッセージです。その言葉がこれからの目標に少しでも参考になれば、と思います。

夏季休業中の表彰生徒

吹奏楽部

○第65回東京都中学校吹奏楽コンクール（練馬文化センター）

B組 金賞 「マゼランの未知なる大陸への挑戦」 → 5年連続金賞受賞！

第74回はたらく消防の写生会

○ポスターの部

優秀賞 2年2組

2年3組

入選 2年1組

2年2組

2年3組

○未来画の部

優秀賞 2年3組



第74回 全国公募台東書道展

入選 1年1組

1年2組

2年2組

2年4組

3年2組

3年2組

1年1組

1年3組

2年3組

3年1組

3年2組

3年3組

職業体験の様子

